

「東日本大震災から2年が過ぎて」

西日本支部 南部 満（工業化学4期）

世の中何が起こるか分らない。人生油断大敵。これが私の東日本大震災の率直な感想です。

未曾有の大災害となった東日本大震災から2年が過ぎ、被災地では復興に向けて懸命の努力が続けられています。津波被害の無かった地域では以前よりも立派な街並みが復活し、震災の記憶すら薄れてしまう程ですが、津波被害地域や原発の周辺地域では未だに殆ど手付かずの地域もあり、復興にははるか遠い道のりです。

震災2年目を迎えた記念番組で、各種マスコミでは、評論家が声を荒げて復興の遅れを攻め立てています。観ていて、あまりに無責任な論評や荒唐無稽な意見が横行していて苛立ちを覚えます。実情が全く判っていない単なる評論家としての意見ばかりです。

被災地では災害に強い街づくりをどうやって行っていくか、街の将来像について住民から色々な意見がでて百家争鳴、うまく結論が導き出せていません。総論では賛同が得られても、各論になると意見がまとまらないのです。

関東大震災の復興を指揮した後藤新平の功績が称えられています。今の政治家はだらしがないと言う論評もよく耳にします。後藤新平の復興計画は立派なものだと思いますが、民主主義の制度が整っていない時代と同じような手法が現代で出来る訳はありません。

復興を行うためには土地などの権利関係の調整、文化財の調査や保全、貴重動植物の保全、インフラ整備のための協議など沢山の解決すべき事項が多く、簡単ではありません。

ハード面だけに頼ると要塞のような人の近づけない町になってしまい、三陸海岸の特長である美しい海辺の景観も台無しになってしまいます。かと言って、堤防の嵩上げや防潮堤の復旧は住民の生命、財産を守るための喫緊の課題です。バランスが難しい課題です。

つい最近、陸前高田市や女川町の復旧計画が明らかになってきましたが、何と8m~10mの盛土により嵩上げして町の復興を図る計画です。

被災地での瓦礫処理は当初計画よりも早く処理が進んでいて、大方今年中に処理が終わりそうな状況です。宮城県では1年間に発生する一般廃棄物量の20倍ほどの震災瓦礫が発生したと言われていましたが、処理に着手してから僅か2年間で処理が終わるなど想像できないほどの進捗です。多くの技術者達や全国からの支援の賜物です。この稿を借りて御礼します。

今後は放射能の除染や放射能に汚染された廃棄物の中間処理や最終処分など益々難しい問題が山積しています。我々技術者が創意工夫と知恵とを結集し、被災地の一日も早い復興一翼を担って行きたいものです。皆様のご協力をお願いします。

エヌエス環境株式会社 東北支社長